

演題 審美補綴に必要な天然歯形態と基本三形態の類似性

講師 片岡繁夫

抄録

審美補綴を完成に導く要因として、歯牙形態がもっとも大切と考える。健康的で、美しい顔貌を含めた口腔の回復は、歯牙排列の位置関係(Positioning)であり、個々の天然歯のもつ歯牙形態(Morphology)、及び表面性状(Surface, Characterization)を再現することである。以上は、表面的に見える美しさを司る要因であるが、歯周組織の健康を取り戻し、かつ維持することも、審美補綴では欠かすことのできないことである。それらもまた天然歯牙の形態を再現することにあると考える。よって、天然歯形態には、補綴物に必要なすべての事柄が兼ね備えられている。天然歯形態を様々な角度から観察し、美しい顔貌、及び健康的な歯周組織の美しさをつくるための補綴物がどのような形態であるかを考察する。

さらに、天然歯はある法則に則り、基本三形態に分類することができ、それらの形態(円形、尖形、方形)の類似性を解説する。